

『森を見て、木を見る』 エレミヤ書 31章1～14節 2015.6.28(主日礼拝説教より)

『そのとき…「わたしは彼らの悲しみを喜びに変え、彼らの憂いを慰め、楽しませる。…わたしの民は、わたしの恵みに満ち足りる。」…あなたの将来には望みがある。—主の御告げ—』 エレミヤ書 31:13～14、17

◆エレミヤ 30 章で神は『見よ、その日が来る！』と、全イスラエルを救う日を預言した！神への不従順、偶像礼拝…故に受けた傷は、「わたしが癒す(30:17)！」と。全ての試練、苦しみ、悲しみは、私たちが謙って神に立ち返るためにある！◆イスラエルは全世界の救いの初穂！その民への対応(選び、不信仰、裁き、救い、回復…)は、私たちの救いの『型』でもある。神に捨てられたかに見えた彼らに対し、神は『…遠くから、現れ「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた…」(3節)』と愛を告白。「そのとき！」爆発的な喜び、かつてない大きな楽しみが押し寄せ(31:8,13～14)、『あなたの将来には望みがある(31:17)』と告げられた。裁かれ、祖国を失い、70年間もの捕囚が宣告された悲惨な現実の中、どこに希望がある？◆「木を見て森を見ず」とは、物事の一部を見て全体(本質)を見失うこと。30～31 章で語られる神の愛と憐れみ、失われた者を回復される神の慰めは、まさに神の本質(森)である。この森を朝に夕に確認しつつ、日々の現実(木)を見る(「神の視点で現実を見る」)ことこそ、過酷な毎日の中で、人生と自分を見失わない唯一の秘訣！◆私たちが神から目を逸らしてしまうものが3つある。①出来事に心奪われる時、神の配慮も助けも見えなくなる。出エジプトの民は、荒野という現実だけを見て眩き、神の助け・養い・導きを見失った！②人を見るとき、神の栄光を見失う！ヨハネ9章の盲人の癒しで弟子たちは、その盲人に注目するあまり、原因に関心を示し、パリサイ人は、苦しむ者の救いより律法違反を責めた。③自分を見るとき、実践する愛を見失う！マルコ 10 章の富める青年は、律法を守る自分の永遠の命の獲得だけ考え、愛の実践は眼中になかった。神の視点で現実を見る！常にここに立ち返り、望みに輝いて、御国を目指そう！